

新学習指導要領実施に関する実態調査 記述 [小学校]

1 授業時数増加には、どのように対処していますか。「⑦その他」の内容

<低学年の授業時間の増加の問題>

- ・2学期から2年生だけ授業時数が増えた。
- ・低学年のみ、コマ数増加で対処した。
- ・低学年の空き時間がへり、専科のある中高学年より大変である。
- ・2年生が週1時間の増。週1日6限までの授業がある。
- ・2年生の6校時実施は厳しい。
- ・小1、小4に限り、2学期以降、週時数を1時間増やしている。

<授業時数確保>

- ・日曜参観を必要な時間（午前中）から、5時限までとした。
- ・日課表でやることが校長の考えで増やされた。（朝の行間）
- ・学校行事は教科に振り分けられている。教科の進呈に影響が出ていて大変である。
- ・行事を教科に入れている。
- ・来年度の計画を立てる際に、授業時数確保のため2学期の遠足をやめるとか、始業式・終業式の日授業（学活）を増やす等の話が出てきている。（給食が始業式・終業式の日にも実施できるらしい）
- ・授業時数の確保に終われている感じがする。「宿泊学習を夏休みに」という声が職員からチラホラ聞こえてきている。
- ・来年度、始業式の日授業が午後に組まれるかもしれない。（給食実施がほぼ決定のため）内容が多くて終わるのが難しいため、5年生の宿泊学習が来年も夏休みに行われるかもしれない。（今年は第3希望で夏休みに実施することになった・・・残念）

2 授業時数の増加により、学校現場でどのような影響がありますか。「⑥その他」の内容

<子どもへの影響>

- ・1年生が毎日5校時までの授業になり、5校時は疲れている。
- ・2年生の6校時はきつそうです。
- ・低学年の6校時授業は、集中力に欠け児童の負担が大きい。
- ・特に低学年の6校時はつらい。
- ・小2に6校時は無理がある。動いて活動できるように、担任は図工を組んだりしている。体力的にもちょっときつそうです。
- ・低学年の子どもたちの時数増は負担が大きい。6限などは集中できないときがある。
- ・2年生でも6校時まで授業をする。16:00までの授業は大変である。下校は16:20分頃。子どもへの負担が大きい。
- ・1、2年児童への負担増が心配される。
- ・特に低学年の子どもが、学習に対する集中力・意欲が継続しない。
- ・教職員も子どもたちも疲れ切っている。
- ・教師も子どもも疲れ切っている。
- ・授業時数の増加で子どもたちの放課後がなくなり、日本の子どもたちは世界一短い遊び時間がさらに少なくなってしまう心配。詰め込み、教え込み、点数主義（数値目標）では学ぶ喜びは生まれない。学習嫌いを増やす。

<子どもとのかかわり>

- ・放課後のゆとりがなく、個別指導（どうしても必要な）ができません。
- ・内容が増え、低学年では復習の時間が十分とれない。
- ・復習など、「確かめ」の時間がとれない。新しい内容をこなすのに精一杯。
- ・子どもと向き合う時間がない。困っている子どもの声に耳を傾けたり、解決したり、そういうことができないのが今の現場です。とにかく多忙！
- ・授業時数をこなすことばかりになってしまい、子どもとの関わりの時間が十分とれない。
- ・子どもの学習に対する集中力、意欲が持続しないということについて、2年生・3年生など低学年で顕著である。指導すべき学習内容が多く、時数がぎりぎりです。余裕がない。わからない児童をわかるまで教えられない。一部の学年では学期末に、1日に算数を2時間、3時間実施した。そうしないと終われない。能力別少人数指導に拍車をかけた。

<教員の多忙化>

- ・時数・内容増加に伴い、教材研究等十分な準備や定着・深化を図る時間がとれなくなり、教員も子どもも共に多忙化している。ゆとりのない毎日で疲労感も増大した。
- ・とにかく忙しい。授業内容が難しい上に多すぎる。
- ・授業時数増で、学校現場はさらに忙しくなった。
- ・時数が増えたために、教員も子どもも共に余裕がなくなった。
- ・時数が増えたために、さらに学校全体が窮屈になった。
- ・時数が増え余裕がなく、毎日超過勤務です。
- ・時数増・内容増で子どもも教師も余裕なし。
- ・とにかく忙しくなった。教材も不足している。
- ・今まで以上に教材研究等に充てる時間が少なくなっている。
- ・授業を進めるのに手いっぱい。子どもの理解度に合わせる余裕はない。
- ・教師はますます疲れ切っている。
- ・放課後の時間が短く、会が入ると週2日も、教材研究や校務ができない。
- ・中学年から6時間授業が入り、やはりきついですね。高学年も5時間までが限度のように思える。子どもを帰して30分したら退庁時刻。何もできません。
- ・子どもが学校にいる時間が長く、担任の自由な時間がない。
- ・総合的な学習の時間やAEAなど、外部の講師等との連絡調整が難しい。
- ・教科書研究（教材研究）をする暇すらなく、行き当たりばったりになっている。
- ・教材研究をせずに授業することも。学びとる（子ども主体）にはほど遠く、こなすだけ。（点数がとれるように）
- ・教職員同士がゆっくり話し合う時間がない。子どもとじっくり話す時間がない。
- ・職員同士の情報交換がやりづらい。
- ・授業準備のことや子どものこと等、他の教職員と語る時間がますますとれなくなった。
- ・教科書の内容が増え終わらない。教材研究・授業準備の時間がほとんどとれない。
- ・運動会の応援練習やリレーの練習を授業時間にとれないので、昼休みに行っている。

<その他>

- ・行事の精選がおくれている。地域の行事優先で、負担が増えているようだ。
- ・時数の負担はさほど感じませんが、複式の忙しさは解消しないといけない課題だと思います。

3 外国語活動はどのような内容で実施していますか。（英語活動以外の内容）

＜異文化理解のための活動＞

- ・国際交流員による異文化理解。
- ・外国の方に来ていただき、文化や風土について子ども達に話をしたり、ゲームをしたりする。
- ・文化の紹介をしている。
- ・3・4年生は総合学習で外国の文化などについて学習している。1・2年生は創意で13時間実施している。ALTと一緒に。
- ・いろいろな国のあいさつ、文化に触れる活動をしている。
- ・ハロウィンやクリスマスを入れている。
- ・ALTとのふれあい等（給食、レクリエーション）。
- ・外国について知る活動を行っている。

＜英語以外の言語活動＞

- ・一部の学級でハングルを2時間程度実施。
- ・韓国語、中国語などでのあいさつ程度。
- ・外国語という部分で、いろいろな言語を扱っています。

＜地区独自のとりくみ＞

- ・コミュニケーション科。
- ・コミュニケーション科として一見似たような内容であるが評価の観点等がちがうものを並行して行っている。
- ・薩摩川内は、たくさん実施。

＜授業以外のとりくみ＞

- ・月1回朝の活動で英語活動をしている。
- ・1・2年は創意の時間 6時間
- ・月1回全校朝会の代わりにイングリッシュタイムを実施。
- ・AETが派遣されてきている。小規模校であるため、全校児童参加することもある。
- ・学年でおよその内容を決めてはいる。あまり、がちがちには計画を作っていない。
- ・創意の時間を使ったALTとの交流。

4 英語活動はどのように実施していますか。「⑤その他」の内容

＜独自で作成した指導計画の具体例＞

- ・中学校区で作成したものを使っている。
- ・指導計画はあるが、実際にはALT、GTと授業前に相談し柔軟に扱っている。
- ・英語ノートと教育課程があっていない。川薩オリジナル。
- ・学校独自で積み上げてきた教育課程を毎年内容・時数を見直している。
- ・鹿屋市で作成したものを使っています。
- ・鹿屋市の指導計画に準拠しています。
- ・他の学校の計画を参考に、自校の計画を作成。
- ・以前からのものを使っている。
- ・5・6年は英語ノート、他の学年は市町村統一の指導書または自校作の計画に従って進めている。

＜ALT・AEAとの授業の具体例＞

- ・英語指導員の先生を週1回招いて、TT授業を行っている。

- ・教育計画を作成し、AEA を活用して実施している。
 - ・ALT と英語派遣教師の 2 人が交替で来てくれていて助かっている。その方々に一切をお願いしている。
 - ・ALT と相談する時間もとれないので、担任が指示したことを ALT にやってもらっている。
(あまり意味がない)
 - ・総合的な学習の時間に ALT にお手伝いをいただく予定。
 - ・5・6 年生が、教科として英語をしている。音声中心の授業。他学年は「総合」と「生活科」で ALT を交えて国際理解として、月 1 回活動している。
 - ・5・6 年生は授業。他の学年（1～4 年）は創意で年に 3 時間実施。
- <中学校との連携>**
- ・中学校の先生に相談にのってもらって実施したり、授業に入ってもらって TT で行ったりしている。
 - ・小中併設なので、中学校英語教諭との TT も導入している。
 - ・中学校の英語担当教諭が TT で入っている。
- <複式学級の指導>**
- ・複式 A 年度 B 年度で実施。
 - ・複式のため、移行措置のため今年度は 2 学年分をしている。5 年生が使用する 6 年生分の教材（英語ノート）がない。コピーで対応している。
 - ・少人数複式のため A・B 年度として実施している。

5 教科指導についてどのような問題点がありますか。「⑥その他」の内容

<教える内容が多くて苦労している具体例>

- ・とにかく内容が多い。
- ・とにかく学校が忙しくなっている。単元の内容が濃く、終わらない。いつも駆け足で授業をしているようだ。
- ・ほとんどの学年の先生方が、夏休み前ぎりぎりまで授業を終えた。子どもたちが分からなくてただすすめるという教員も出ている。どうにかしないと、どんどん学力は低下すると思う。じっくり考えさせる授業がしたい。
- ・学習内容量が多くて、ふうふう言ってます。
- ・とにかく細かく単元が多い。（特に国・算）特別支援教育の支援員の先生が、「進むのが速いですねー」とびっくりされている。
- ・授業を進めるのに精一杯。
- ・とにかく、授業が終わらず苦労した（国・算）
- ・算数、国語が盛りだくさんで終わらせるのに精一杯だった。定着を図りたいが時間がない。
- ・スパイラルの名の下に難解な内容が平気で下学年に入れられている。例えば、2 年生の算数の立体図形の頂点、辺、面の数など。
- ・特に算数の内容を 1 学期に終えるのが大変だった。（5・6 年複式で）外国活動等評価項目が多すぎる。
- ・分からない子に時間をかけられない。時間をかけていくと、どんどん遅れていく。どうにかしないと！
- ・学習内容が定着しないうちに次に進まないといけないので、子どもたちはどんどん忘れていつている。

- ・指導内容が増えて、学力が定着しにくい。落ちこぼれを作る。
- ・教科書の計画時数が内容とあわないことが多く、結局時間がかかる。6年の算数で削った部分ある。
- ・国語の単元終わりにある活動主義とも言える「調べ学習」では、一人ひとりに対応できないし、時間もかかるし、調べたいことがインターネットや本にないこともある。
- ・学習内容が定着しないうちに次に進まないといけないので、子どもたちはどんどん忘れていつている。
- ・「教科書をすべて教える必要はない」というのは本当ですか。予備時数があるとはいえ、テストが1教科6〜7枚あるということは、6〜7時間はプラス必要となる。時数は実際には足りない。
- ・算数がなかなか終わらず駆け足になり、反復学習させる余裕がなかった。単元テストをさせても、それをわかるまでやり返しをさせる時間がない。
- ・学習内容が細分化され、1時間2時間扱いのものが増えた。結果的に学習項目が増大し、かつ指導時間が短いので定着を図ることが難しくなった。
- ・社会科3・4年生は教科書が上下になっているが、内容が変わりととても扱いにくい。町の中学年での社会科見学（警察。消防署）を3年生で行っていたが、教科書が「下」になり、4年生になった。やりにくい。
- ・複式だと特にきついですね。
- ・教科書が厚く、消化できない。定着の有無関わらず進めるしかない状況である。
- ・とにかく教える（学習する）内容が多い。「基礎基本の定着」どころではない。じっくり指導することができない。
- ・3時間分を1時間でやったとか、2時間分を1時間でやったとか、担任間でそんな話をしている。

<子どもたちの負担増>

- ・学習内容の増加が、子どもへの負担、指導する側の負担となっている。
- ・低学年の先生、特に1・2年生の先生方と児童の負担が大きい。教科書のページ増は、子どもたちに大きな負担。
- ・きめ細かな指導などができない。内容増のため、子どもの理解度にかかわらず、進呈を進めるために、常に子どもたちを急がせているし、急がせる言葉を発している。
- ・内容が多く、難しいため、児童に負担が大きい。定着も難しく児童が不安のためパニックを起こすこともあった。
- ・2年生のはじめの算数に習ってもいない漢字が次から次へと出てくるので、国語が苦手な子が、問題を読むのに苦労している。

<指導内容が上の学年から内容が下りてきたために難しく定着が厳しい具体例>

- ・子どもたちが混乱している。算数< l (旧) $\rightarrow$ L (新) > など。
- ・小・小連絡会で話題になったのは、2年生の算数の「長さ」では、 cm 、 mm さらに m まで1単元の中で学習するようになっており、子どもは理解しづらそうだった。以前は cm 、 mm を先に学習して、あとから m を学習していたと思う。
- ・1年生、2年生を指導しているが、算数での時間と時刻など、半分くらい分からない。時数（余裕時数）も少なく、宿題等で保護者にもお願いしてプリント等で対応しているが、保護者からも「難しい」と苦情が出ている。
- ・5年で素因数分解が出てきた。びっくり。（小学生向けではあるが・・・）
- ・本当に内容が難しい。2年生に mm 、 cm 、 m 、 ml 、 dl 、 l など・・・。

・3割増加したことが、多忙化につながっている。小学校2年生で分数が出てくるなど子どもにとっても大変。

・子どもたちの実態に即した時数配分になっていない。＜例＞1年生算数「いくつといくつ」大切な内容であり、定着が難しいところであるのに時数が少なすぎる。とても高度な内容になっている。

・上の学年から内容がおりてきたために難しくて定着が厳しい。例えば、国語で中学年の俳句・短歌や高学年の漢文など。

・上の学年の学習内容が下におりてきて、定着させられないほどの量と難度である。教材づくりも大変で、教師は自分の力量のなさにあせる、子どもは「分からない」と自信をなくす、保護者は「我が子はおいていかれるのでは・・・。」と不安になる。そして、学習塾へ行く子が増えた。学力がますます二極化する。

＜教材備品・教具など条件整備の問題＞

・指導内容に応じた教材・教具、備品が十分でない。例えば、「電子黒板」が昨年、鳴り物入りで入ってきたが、そのソフトが対応していない。

・教科書が変わったことにより、これまで使用してきた教具、教材などが使えないことがある。

・以前は支援員がいたが、今は人がいない、さがしているということで、担任が一人で授業をしている。難しい。発音とか正しくできない。

＜全国学力テストの問題＞

・授業が終わらない。1学期やらなかった全国学テを町教委は「2学期にする」と言っている。もともと2学期には計画がなく、予備時数も少ないのにえらい迷惑だ。

＜伝統・文化にかかわる内容＞

・国家主義的な内容が多くなっていることを危惧している。

・教科書の内容に日本の伝統文化、規範意識に関わることが多い。

7 学習指導要領改訂にかかわる学校現場への影響をお書きください。

＜学習指導要領の問題＞

・学校現場の実態を知らない者たちが勝手に作ったとしか思えない。教科間の横の連携など、どこまで連携がとれているか疑いたくなる。

・自治体への陳情・請願をして新学習指導要領の白紙撤回運動を展開すべきでないでしょうか。

・改訂ごとに教えるべき内容が変わる領域が教科によってあるので困る。（面積の公式など）

・個人的には、教科外教育活動に割く時間が増えているような感覚がある。（例として）情報モラル、人権、生徒指導、キャリア教育 etc 数え上げればキリがないように思える。恐らく、今回の震災を機に、防災教育、危険回避能力の向上なども求められるにちがいない。もちろん、どれも大切な内容だが、何か“コト”が起これば、学校の教育活動に持ち込んで“〇〇教育の必要性”を訴える習慣は改める必要はないのか。余りにも社会の諸問題を“教育（学校）で決着をつける”風潮があるように思えてならない。学校のスリム化は、こうしたことから始めていくべきだと思う。

・学習指導要領に示していない内容も、児童生徒の実態を踏まえて指導できるという点。「個に応じた指導」の充実については、ある段階で生じた小さな習熟の違いが、上学年で、より大きく開くという点。習熟度別の授業により、児童・生徒間に差別意識が生み出されるのではないかという点。問題だと考えられる。

・子どもたちの学力の格差が広がり、人間関係にも影響が出るのではないかと心配である。戦

後から繰り返してきている失敗を、また繰り返すのではないかと心配である。

<子どもの学力の問題>

- ・ますます学力低下が進むことが予想される。
- ・学習指導要領の改訂によって学校現場に大変影響がある。常に追われ、子どもに向き合う、教育に向き合う時間がない。下位の子どもたちが増えていくことを実感している。
- ・学力格差が広がる一方。安倍内閣で決められたものを何とか早く見直さなければ、子どもたちの学習意欲や学びに深刻な影響が出ると思う。
- ・理解にかかる子は、置いてけぼり状態。学力低下、学ぶ意欲が減ってきている。授業のカバーを家庭学習に置き換え、宿題増が激しく、学ぶ意欲の低下になっている。低学年も6時間授業で子どもらは疲れ切っている。
- ・教員への影響より、子どもへの影響が恐い。例えば、「分からないのはその子が悪い」「夏休み等の学習を」という発想が強くなれないか心配である。
- ・学習内容が増えたけれど、学力向上は望めないような気がする。発達段階をしっかりと考慮した学習内容と量であってほしい。

<学校教育の劣化>

- ・子どもにとって楽しみの少ない学校になっている。授業の脱線（いい意味で）ができない。パッパッと終わらせるのみ。
- ・指導法まで介入され、みんな同じ指導法で子どもたちにも合わない。勤務はものすごい超勤、労働強化でみんなつらい。
- ・算数など予定時数175時間に対して、実施可能時数175時間でテストや練習をする時間もない。1学期に7月19日まで授業をしていたクラスもあった。全く余裕がない計画の立て方である。2年生で6校時までの日があり、居眠りをする子も多い。授業が成り立たない。3年生も6校時の日が多く、下校時刻が16時半を過ぎる日もあって危ない。
- ・内容量の増加に時数を機械的にはめているだけであり、子どもの理解力の実態を考慮していないため、理解不足、定着不足の子が次々とふるい落とされているのが現実である。居残りさせて個別指導しようにも教員の側に時間の余裕がない。このまま進んだら誰のための学校なのか分からなくなってしまうのでは？
- ・学校行事が多く、学級独自の活動や授業の進展に問題がある。（特に5・6年）

<勤務時間の適正化>

- ・単に仕事量が増えただけ。勤務時間の適正化は全く行われない。
- ・多忙化に拍車がかかり、余裕がないです。
- ・とにかく、教材研究の時間がとれない。理科の指導書がなく、ワークシート作成など仕事が増えた。
- ・多忙化が全く軽減されない中で、難くなる改訂。教材研究や職員間のアドバイスもろくにできない中で、どれだけの授業ができるのか？
- ・内容を精選し、授業時数も前のように戻して、ゆとりを持って教えられるようにしてほしい。多忙化で大変。
- ・毎日やることが多すぎて大変なのに、それでもなお教える時間や教科が増えている。信じられない。
- ・時間は過飽和状態。指導書にべったりで研究意欲をもつ間もない先生方が増える。指導書にたよる余裕もなく、本人の感覚だけで行われる。
- ・指導内容の増により、今まで学校独自で実施していた活動との調整が難しい。
- ・時数が多くなり、教える内容も複雑になってきた。テストと指導の時間が増えてきているの

で指導課程を消化できない。

＜予算不足の問題＞

- ・学校予算が不十分なので、備品の購入が困難。小学校国語（光村）の掛け図がない。デジタルのもののみになっている。

＜教科書の問題＞

- ・教科書会社も細かい内容の検討が足りないのでは。東京書籍の国語の小学校3年生の教科書では、新出漢字が1学期101字、2学期が59字、3学期は40字と、差がありすぎる。同じく東京書籍の算数の教科書でも、とても1単位時間では、終わらない内容が、1単位時間扱いとなっている。

＜その他＞

- ・完全複式で、とにかく先生方は忙しい。放課後の会などは減らないので、結局、残業や持ち帰り仕事になっている。

- ・複式の多忙化解消も課題ではないかと思います。

- ・指導内容が変更になったため、国語科でいえば範読CDなど購入したい教材もあるが、昨今の教育予算削減のためまだ購入されていない。

（学習指導要領の改訂に関してではないかもしれないが）デジタル教科書を町単位で購入した（全学校に国・理）ため、教育予算を大幅に圧迫し、3・4年社会科の副読本の改訂版を新4年生の分は届かず、旧版のままで活用。新3年生は改訂版を、新4年生は旧版を使用しているという不条理な実態。教頭会・校長会でも「早く4年生にも改訂版を使わせるよう要求せよ」と、強く申し出ている。

- ・特活・外国語活動などの指導要録の記入の仕方について、書き方がはっきりしない。

- ・保健学習の薬物乱用のところで、学校薬剤師の先生から、「授業に入りづらくなった」と、聞きました。教科書外のことは話をしないでほしいということらしいです。

- ・現在の小学校高学年の子どもや、中1・2年の子どもたちは指導要領改訂のはざままで苦労しているように感じる。